

2 しごとを創る

945億円 (対前年 ▲32億円)

- 人口動態においては東京一極集中の傾向が続いており、労働力不足が深刻化
- IoT等先端技術の進展やグローバル化、外国人観光客の急増など、社会構造が急速に変化

時代の潮流を的確に捉え、生産性・収益性を高める政策を強化

県内企業の成長力強化	801.6億円 (対前年▲32.2億円) ①減 中小企業融資制度の過年度分 (▲34.2億円) ※中小企業融資制度を除いた場合 54.9億円 (対前年▲0.8億円) ②減 白浜町第2ITビジネスオフィスの整備完了 (▲0.8億円)	1 和歌山県データ利活用推進センターの開所 (P19) 2 企業へのIoT等先端技術の導入を強力にサポート (P20) 3 創業・第二創業を活性化するベンチャー企業誘致を強化 (P21)
農林水産業の振興	134.5億円 (対前年+0.1億円) ③増 漁業用冷凍冷蔵や選果施設等の整備 (+9.3億円) ④減 農道整備工事(紀美野町山畑2期)完了等 (▲9.4億円)	4 経営発展や法人化など強い農業経営体を育成 (P22) 5 生産性革命に資する研究・開発を推進 (P24)
観光の振興	9.1億円 (対前年+0.2億円)	6 「サイクリング王国わかやま」の更なる推進 (P25) 7 教育旅行・医療観光を切口とした新たなインバウンド戦略 (P27)

2 しごとを創る

◇新規・拡充

◇継続

・金額単位のないものは千円単位

・()内は昨年度当初予算額

県内企業の成長力強化

1. 中小企業の競争力強化

◇データ利活用推進プロジェクト 62,281 (19,632) P19

日本のデータ利活用拠点をめざし、産学官の連携によりデータ利活用を推進し、行政課題の解決や県内企業の競争力を強化

◇和歌山IoT等導入促進プロジェクト 4,398 (-) P20 〈成長サポート資金融資枠25億円〉

県内企業におけるIoT等先端技術の導入を促進するため、専門家支援チームを派遣するとともに、融資制度の対象を拡充し設備投資を促進

◇工業技術センターによる研究開発支援

199,234〔②補正111,986〕(202,243)

県内産業の技術力・研究開発力向上を総合的に支援するため、コア技術の研究開発や技術相談、先端機器を備えたオープンラボなどを展開

◇パッケージデザイン魅力向上支援 909 (-)

消費者の購買意欲を喚起するパッケージデザインの向上を図るため、事業者の意識改革を促し個別相談等の支援につなげるセミナーを開催

◇海外市場との商取引拡大 16,000 (20,000)

ジェトロ和歌山貿易情報センターと連携し、県産品の海外販路開拓や外国企業の誘致、観光プロモーションなどの取組を強化

◇中小企業融資制度の充実 〈新規融資枠 900億円〉

経営の安定化や事業の活性化に必要な資金を円滑に調達できるよう、金融機関、信用保証協会と協力して融資を実施

2. 新たな産業の創出

◇ベンチャー創出推進プロジェクト 5,026 (4,998) P21

創業・第二創業による産業の活性化を図るため、これまでの取組に加え、ベンチャー企業を「呼び込む」企業誘致奨励金制度を創設

◇和歌山ワーケーションプロジェクト 3,888 (5,546)

働き方改革や地域の活性化につながる「ワーケーション」を加速するため、家族でのワーケーション体験等を通じて適地・和歌山をPR

3. 産業を支える人材の育成・確保

◇きのくに ICT教育 54,231【再掲】(-) P9

これからの情報化社会において必須となる情報活用能力を育み、来るべき社会で活躍できる人材を育成するため、県独自のICT教育カリキュラムを構築

◇産業を支える人づくりプロジェクト 40,147 (34,057)

企業と高校が協働した人材育成の取組に加え、「応募前企業ガイダンス」を新たに紀南地域で開催するなど、高校生の県内就職対策を強化

農林水産業の振興

1. 農業の振興

◇農業経営発展サポート 10,600 (-) P22

地域農業をけん引する強い経営体を育成するため、意欲のある農業者を掘り起こし、事業の成長段階に応じた支援を実施

◇県産農水産物・加工食品の輸出促進 28,270 (25,795)

海外の見本市への出展や百貨店での和歌山フェアの開催、海外市場調査の実施等、海外販路開拓に向けた取組を促進

◇ロボット・ICTを活用した“スマート農業”プロジェクト 444,348 (442,626)

農作業の省力化や農作物の品質向上のため、ロボットやICTなど先端機器の導入や研究開発を推進

◇果樹産地の強化 111,157 (146,111)

高品質果実の生産や流通施設の整備、新戦略商品開発を総合的に支援するとともに、みかんの厳選出荷により、果樹産地の競争力を強化

◇野生鳥獣の捕獲対策 465,211〔②補正38,042〕(471,569)

有害鳥獣捕獲対策や狩猟者の育成等を推進するとともに、わかやまジビエ認証制度の普及やジビエフェスタの開催等の取組を実施

2 しごとを創る

◇新規・拡充
◇継続

・金額単位のないものは千円単位
・()内は昨年度当初予算額

2.林業・水産業の振興

- ◇森林・林業の再生と水産業の活性化
21.3億円〔②補正3.4億円〕(19.3億円) P23
森林管理、生産、加工販売まで総合的に取組む「新・紀州林業」への挑戦
時代の変化に対応した収益性の高い水産業を創出

3.農林水産業の担い手の育成・確保

- ◇農林大学校での充実した養成・研修 43,313 (47,627)
優れた経営感覚や実践的技術・知識をもった農業者や林業者を育成
- ◇生産性革命に資する研究・開発等の推進(地方創生拠点交付金)
〔②補正349,736〕 P24
県内製造業や農林業における生産性の向上や地域産品の高付加価値化
につながる研究開発や人材育成を推進

観光の振興

1.和歌山の魅力を磨く

- ◇サイクリング王国わかやま 572,702 (743,460) P25
海、山、川の大自然の魅力を満喫できる全長約800kmのサイクリング環境を充実し、その無限大の楽しみ方と魅力を「WAKAYAMA8∞」として国内外に発信
- ◇ユネスコ世界ジオパーク認定に向けた取組の推進
349,921 (106,033) P53
「南紀熊野ジオパーク」のユネスコ世界ジオパーク認定に向け、南紀熊野ジオパークセンターの整備と研究・教育活動を強化
- ◇I R (統合型リゾート) の誘致 69,981 (10,000)
地域の特性を生かした地方型IRの実現をめざし、関係自治体や経済界等と連携した誘致活動や調査研究を実施

2.和歌山へ招く

- ◇観光周遊拡大・長期滞在化戦略 106,100 (111,300) P26
県内各地に所在する和歌山の魅力を引き出し、ブランド資産や地域資源とともに周遊する「和歌山の新しい楽しみ方」を提案
- ◇戦略的インバウンド観光の推進
461,591〔②補正99,750〕(251,505) P27
世界的旅行ガイドブックで、世界の訪れるべき地域の上位に選出されるなど本県の注目度が高まる中、この機を捉え戦略的な誘客活動を展開
- 3.和歌山でもてなす
- ◇バス利便性向上促進 13,334 (-) P55
鉄道やバスのスムーズな乗降・乗り換えを実現するストレスフリーな公共交通ネットワークを整備
- ◇インバウンド受入環境の充実 62,185 (75,857)
多言語による公共交通案内表示、電話通訳・簡易翻訳サービスの提供、通訳ガイドの育成など、外国人観光客が安心して周遊できる環境を整備

データ利活用推進プロジェクト

平成30年度：62,281千円
(19,632千円)

日本のデータ利活用拠点をめざして、産学官の連携によりデータ利活用を推進し、行政課題の解決や県内企業の競争力を強化

平成30年4月1日 データ利活用の拠点となる2施設が開所



和歌山県データ利活用推進センター

- ・著名なデータ分析の専門家を顧問として招聘
- ・データサイエンティスト2名を新たに採用



南海市駅ビルに併設

連携

総務省統計局 統計データ利活用センター (仮称)

公益性を有する研究等に、統計マイクロデータ (調査票情報) を提供



様々なデータを収集し、複数のデータを連携させた高度な分析・研究を実施

1 人工知能 (AI) を用いて SNS 情報を抽出・蓄積

- ① NECと連携し、AIを活用してビッグデータから抽出した情報を県センターが評価・蓄積
- ② 行政情報等と組み合わせ、新たな観光施策の検討や県内企業の競争力強化に役立つ研究・分析に活用



県内の大学生がデータ評価に参加できるインターンシップ制度を創設

人材育成

2 医療や健康に関するデータを分析

- ① レセプトデータや健診データなど自治体が保有する医療や健康に関する統計・行政データ、県立医大の検査情報等を収集・蓄積
- ② 国センターが保有する国勢調査や家計調査などの統計マイクロデータ、その他様々なデータと連携させて分析し、県の医療・健康政策に反映



様々な分野でのデータ利活用が進むことで…

県内企業では

新商品開発や新たな販路開拓等を実現

行政では

「経験や勘」から「EBPM」※への転換

※EBPM(Evidence-Based Policy Making) 証拠に基づく政策立案

和歌山IoT等導入促進プロジェクト

平成30年度：4,398千円（新規）
成長サポート資金融資枠：25億円

県内企業の生産性向上をめざし、IoT等先端技術の導入をサポートする専門家支援チームを派遣するとともに、融資制度の対象を拡充し設備投資を促進

1 専門家によるサポート体制の整備 新規

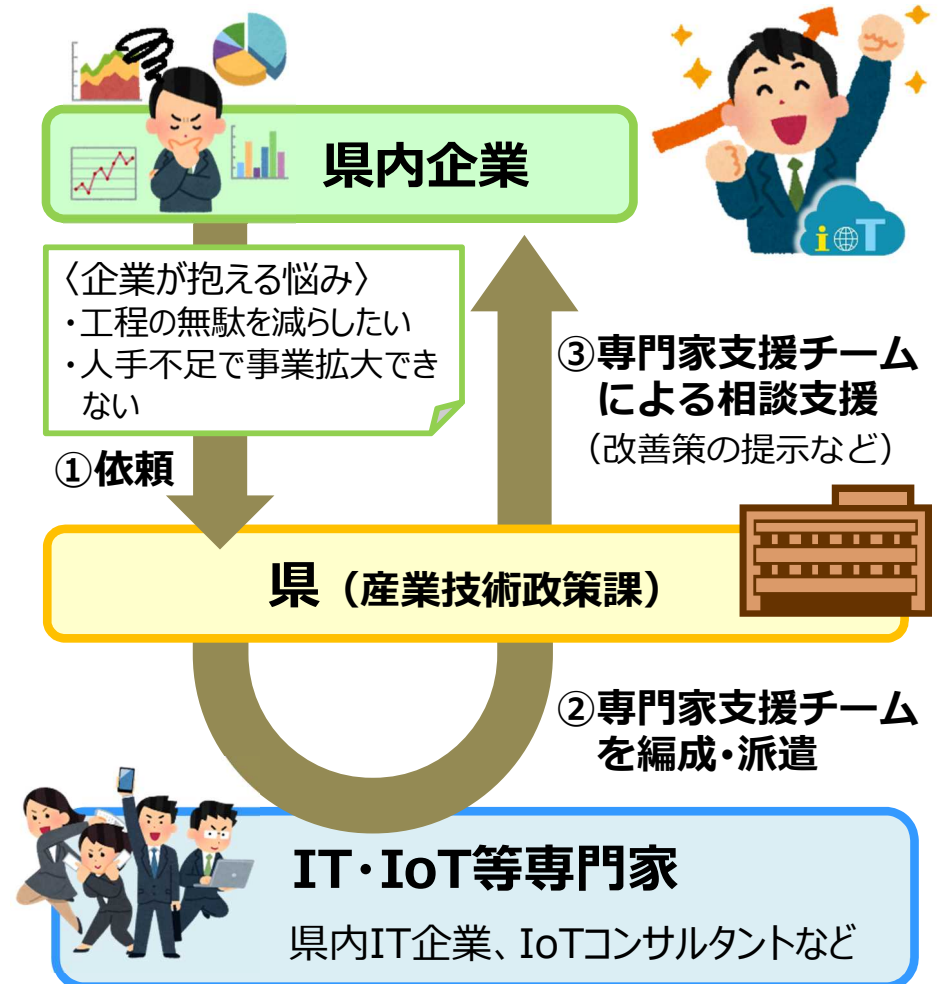
企業の依頼内容に応じ、IT・IoTに関する知見に長けた専門家支援チームを編成し派遣

2 融資による設備投資の支援 拡充

融資制度の対象を拡充し、本事業の専門家派遣を受けて行うIoT機器等の導入を支援（「成長サポート資金」融資枠を活用）

3 セミナーの開催

経営者の意識改革を促すため、成功事例の紹介、支援制度のPRなどを実施



ベンチャー創出推進プロジェクト

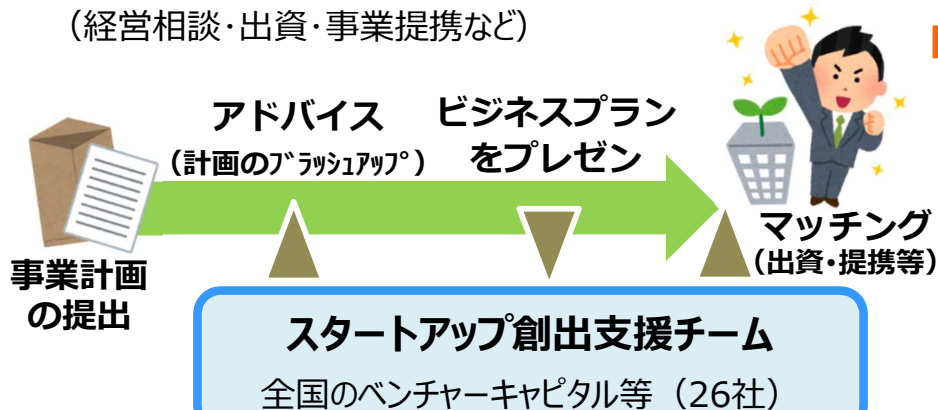
平成30年度：5,026千円
(4,998千円)

創業・第二創業による産業の活性化を図るため、これまでの取組に加え、ベンチャー企業を「呼び込む」企業誘致奨励金制度を創設

ベンチャー企業を「育てる」

スタートアップ創出支援

- ・志高い創業者を発掘・育成するセミナーの開催
- ・ベンチャーキャピタル等で構成されるスタートアップ創出支援チームによるきめ細やかな支援
(経営相談・出資・事業提携など)



ベンチャー企業を「呼び込む」

企業誘致奨励金

将来有望なベンチャー企業※を誘致するため、**企業誘致奨励金制度の対象にベンチャー企業を追加** **新規**

※創業間もない企業で、「スタートアップ創出支援チーム」を構成するベンチャーキャピタル等から出資を受けている企業

〈奨励金の具体例〉

雇用奨励金：新規地元雇用者数×30万円
立地奨励金：投下固定資産額等×30% など

創業・第二創業者が絶えず生まれ、産業活動が活性化

農業経営発展サポート

平成30年度：10,600千円
(新規)

地域農業をけん引する強い経営体を育成するため、意欲のある農業者を掘り起こし、事業の成長段階に応じた支援を実施

STEP 1

スタートアップ

① 経営発展セミナーの開催による気運醸成

- 成功者による講演
- 県内農業者に成功事例集を配布
- セミナーの内容を後日動画配信

② ワークショップの開催

- 成功者とセミナー参加者で意見交換

STEP 2

スキル向上

① 「わかやま農業MBA塾」[※] (農業経営塾) の開催

- 専門家による講義
 - ・マーケティング
 - ・労務管理 など
- グループ討議
- 経営計画の作成

※MBA (Master of Business Agriculture)

STEP 3

経営発展

① 専門アドバイザーの派遣

- ・社会保険労務士
- ・税理士 など

② 融資・補助事業の活用促進

6次産業化

規模拡大

法人化

(経営計画を達成後)
農業経営マイスターとして登録

地域農業をけん引する強い経営体へ発展

森林・林業の再生と水産業の活性化

平成30年度 : 21.3億円
平成29年度補正 : 3.4億円
(19.3億円)

森林・林業総合戦略

森林管理から木材の生産、加工販売まで総合的に取組む「新・紀州林業」への挑戦

① 森林ゾーニングによる「選択と集中」を強化

・素材生産量目標 18.1万m³ (H27) ⇒ 26万m³ (H33)

▶ 経済林の「重点エリア」に集中支援

② 基盤整備の推進

▶ 林道、作業道等の整備を促進

・林道整備 (H30年度 : 21路線)

▶ 高性能林業機械の配備を推進

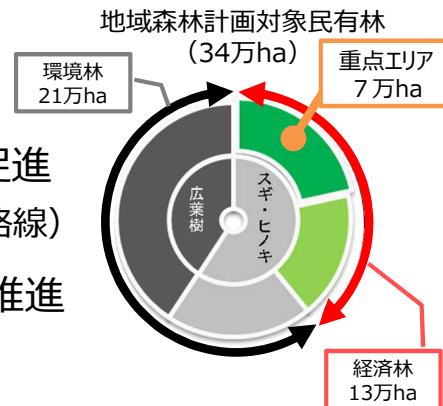
③ 適正な森林管理の推進

▶ 林業の循環システムを促進 (植栽→保育→伐採→植栽)

・植栽、間伐等 (H30年度 : 2,296ha)

▶ 「企業の森」等による森林環境保全活動を促進

▶ 貴重な森林は公有林化等の措置



漁業経営基盤の強化

時代の変化に対応した収益性の高い水産業を創出

① 水産環境の整備

▶ 表層型浮魚礁の漁場整備により、漁業経営を安定化 (H30年度設置場所 : 太地町沖合)

② 漁業者グループによる複合経営の推進

▶ 新たに必要な漁船や養殖設備等の取得経費を支援 (交付先 : 漁業協同組合、補助率 : 1 / 2)



技術習得等の課題解消のため、H30年度から、指導者の斡旋など、複合経営開始に向けたサポート体制を強化

③ 経営統合による複船経営の推進

▶ 複船経営を希望する漁業者への経営統合をコーディネート

生産性革命に資する研究・開発等の推進

平成29年度補正：349,736千円

県内製造業や農林業における生産性の向上や地域産品の高付加価値化につながる研究開発や人材育成を推進（国の地方創生拠点整備交付金を有効活用）

イチゴ・トマト

農業試験場

▶ ICTを活用した施設園芸を推進

概要：ICT技術を活用し、センサーと温湿度管理機器等をリンクさせた環境制御栽培施設（ハウス）を整備

効果：品質・生産性を向上させる栽培条件・技術を開発

ウメ

果樹試験場うめ研究所

▶ 新たな特性をもつ新品種を育成

概要：高温や乾燥などの気象条件を擬似的につくることができる屋外型人工気象室を整備

効果：ストレス耐性や高機能性を獲得した新品種を育成

熊野牛

畜産試験場

▶ 優良な熊野牛の生産を拡大

概要：熊野牛の改良速度を向上させるため、飼育頭数の増加等に対応した哺育育成施設に再整備

効果：「ゲノミック評価」による優良な熊野牛の選抜を強化

紀州材

農林大学校林業研修部

▶ 林業従事者の技術習得環境を充実

概要：作業の生産性と安全性を向上させるため、伐木技術の訓練などを行う研修施設を整備

効果：高度で安全な技術を習得した林業従事者を育成

ロボット・IoT・AI

工業技術センター

▶ 製造業の先端技術導入を促進

概要：ロボット・IoT・AIなどの先端技術の導入効果を実証できるオープンラボを整備

効果：IoTを活用した自動化など、企業のニーズに応じた生産工程改善システムの開発等を支援

サイクリング王国わかやま

平成30年度：572,702千円
(743,460千円)

海、山、川の大自然の魅力を満喫できる全長約800kmのサイクリング環境を充実し、その無限大の楽しみ方と魅力を「WAKAYAMA8∞」として国内外に発信

1 サイクリストに優しい受入環境の充実

- ①サイクリングロードの**直線化**・専用化、路面表示等の充実
- ②サイクルステーション^{※1}やサイクリストに優しい宿泊施設^{※2}の拡充

※1 バイクラックの設置や、応急修理工具等の貸出サービスを行うコンビニや飲食店など

※2 自転車の屋内保管や、応急修理工具等の貸出サービスを行う宿泊施設



2 誘客プロモーション・周遊促進

- ①ターゲットに近い媒体(自転車専門誌など)で魅力を国内外に発信
- ②周遊促進のため、**県内全域でモバイルスタンプラリー**を実施

3 わかやまサイクリングフェスタの開催

上級者からファミリーまで誰もが和歌山の魅力を満喫できるサイクリングフェスタを開催

- ヒルクライムが設定された超難関コース
- 地域の特産物などのグルメを満喫できるコース
- サイクリング初心者が気楽に楽しめるコース など



観光周遊拡大・長期滞在化戦略

平成30年度：106,100千円
(111,300千円)

県内各地に所在する和歌山の魅力を引き出し、ブランド資産(世界遺産や日本遺産など)や地域資源とともに周遊する「和歌山の新しい楽しみ方」を提案

1 「水の国、わかやま。」キャンペーン

H28～ 「水の国、わかやま。」のイメージ定着
(絶景・温泉など水にまつわる観光スポットの紹介)

H30～ 観光スポットの周遊を促進

- モデルコースの開発
- 案内看板の整備 など



水を見る (写真:次の滝〔有田川町〕)
この地の風土が生み出した圧巻の景観と相まった水の絶景



水が創る (写真:崎の湯〔白浜町〕)
心と体を癒してくれる水の恵み



水と遊ぶ (写真:古座川)
水と一体になって遊ぶアクティビティ

2 わかやま歴史物語

H29～ 歴史・文化に、地域ならではの食・温泉・体験を盛り込んだ『100の旅モデル』を構築

H30～ 旅モデルを広く発信するとともに、スタンプラリーで周遊を促進

旅モデルの例(検討中)



天津神御子の試練 神武東征神話!! 〈時代〉神話
神武天皇による日本建国の経緯を壮大なスケールで描いたストーリー

スポット 水門吹上神社、竈山神社 (和歌山市)
熊野那智大社(那智勝浦町)、渡御前社(新宮市)など

昭和天皇と南方熊楠とキャラメル空箱 〈時代〉昭和
粘菌研究の足跡や紀南地方に行幸された昭和天皇とのエピソードにまつわるストーリー

スポット 闘鶏神社、神島、高山寺 (田辺市) など



観光客を県内各地へ誘導し、長期滞在化を推進

ひと

つばと

いのち

くらし

地域

戦略的インバウンド観光の推進

平成30年度	: 461,591千円
平成29年度補正	: 99,750千円
	(251,505千円)

世界的旅行ガイドブック「ロンリープラネット」で、紀伊半島が世界の訪れるべき地域5位に選出されるなど本県の注目度が高まる中、この機を捉え戦略的な誘客活動を展開

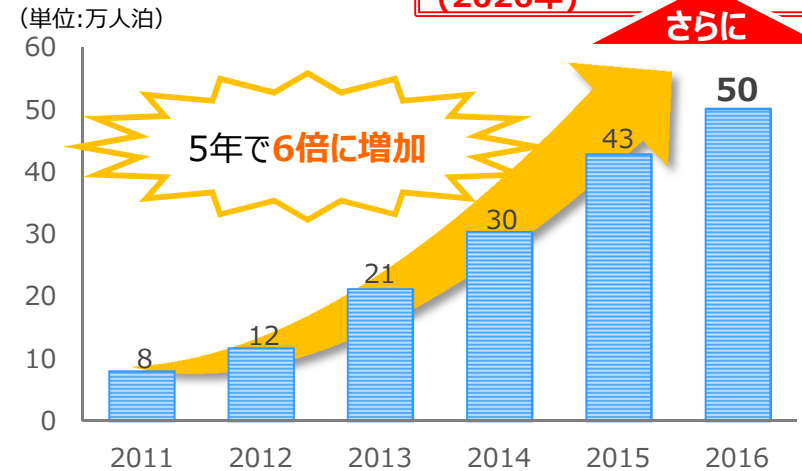
1 新たな戦略の展開

新規

- ① **ターゲット市場の更なる拡大**のため、中国の地方都市や、ブラジル・アルゼンチンなどへのプロモーションを強化
- ② 将来のリピーター獲得に向け、台湾・中国・マレーシア等をターゲットに**インバウンド教育旅行の誘致を強化**
 - ・近畿府県と連携したビジットジャパン地方連携事業の展開
 - ・インバウンド教育旅行コーディネーターの新設 など
- ③ 医療関係者や旅行エージェント、学識経験者等で構成する研究会を立ち上げ、本県のハード・ソフトインフラを踏まえた、**医療観光の可能性を研究**

外国人宿泊者数の推移

目標 170万人泊
(2026年)
さらに



2 国際チャーター便・クルーズ船の誘致推進

- ① 南紀白浜空港 **国際線ターミナルビル**の整備を推進
- ② 大型クルーズ船が着岸できる**港湾整備を推進**
(和歌山下津港、日高港、新宮港)



H30.4月・9月寄港予定

コスタ・ネオロマンチカ (57,150 t)
全長: 220m 定員: 1,800人